

# 目線を変えて

学校教育課 内線 341

特集

町政

情報

募集

保健

特集

町政

情報

募集

保健



## お客様を大切に

～ 若松屋肝吉 ～

扶桑東小学校 八木由里衣 教諭

最初の二日間、工場で和菓子の製造のお手伝いをさせていただきました。工場は材料作りで火を使うため、とても暑く、作業は手作業で行うため、とても大変だと感じました。その中でも、お店の方は協力して手際よく作業をされていました。試作品も作っていて、お店の方同士で話し合っていました。

三日目は、販売のお手伝いをさせていただきました。お客様に合わせて接客しているとお話を聞きました。実際にお客様と上手に会話をしながら接客されていました。三日間を通して強く感じたことは、お客様を大切にしているということ。商品の製造から販売まで、お客様があつてのことだと聞いて、私も子どもたちのために頑張ろうとさらに強く思いました。また、お店の方同士の仲が良く、職場の雰囲気によさも感じました。働く環境も大切だと感じたので、これからの教員生活に生かしていきたいと思っています。

## 先生の職

子どもたちの夏休み中に3日間、扶桑町の社会に目を向け、教員としての力量を高める体験研修の目標・事業所選び・受け入れ交らチャレンジする』ということで、体験研修各小中学校から参加された6名の先生方の9月からの授業や子どもたちに関わる教員……参加さ

## 子どもたちと向き合う

～ 名鉄犬山ホテル ～

柏森小学校 保井大典 教諭



この研修で学んだことを生かし、子どもたちがどうしたら楽しく学べるか、生活できるかを考えて、一人一人の個性や学力に合わせた指導・支援をしていきたいと思っています。

私は、三日間名鉄犬山ホテルにお世話になりました。ベッドメイキングの仕事では、「効率よく丁寧なやること」が大切で、従業員の方々はそれぞれが自分なりに工夫して仕事をしてみえました。「時間をかける」ことが「丁寧にする」こととイコールではなく、短い時間で効率よく仕事をすることは学校現場でも大切だと感じました。それにより、子どもたちとのふれあいや、深い学びにつながる授業準備に時間をかけることができると感じます。また、ボーイの仕事をしている時、廊下でお客様が景色を見やすいように壁側を歩いたり、常連の方の名前を呼んでから挨拶したりする他のロビーのスタッフを見てみると、全ての行動や言葉がけに、「お客様に喜んでいただきたい」という思いが込められているように感じました。

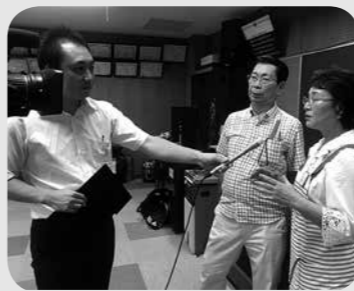
## 場体験記

小中学校に勤務する先生方に、学校以外のための体験研修を行いました。渉など、『自分の体験研修課題に応じて、自ずる先生がすべて一人で行いました。は、この体験研修で得た成果を夏休み明け育活動に活かされています。れた先生方の職場体験記をご紹介します。

## 相手の立場になって考える

～ 中部ケーブルネットワーク春日井局 ～

扶桑北中学校 天野友貴 教諭



中部ケーブルネットワーク春日井局での三日間の社会体験研修を通して、相手の立場になって考えることの大切さを改めて学ぶことができました。それを一番感じたのは、番組の取材に同行させてもらった時のことです。番組を作る時は、番組の作り手が「何を伝えたいのか」も大切だけれども、視聴者が「何を知らなければならないのか」を考えると、番組の構成を考えると、なるべく多くの人が映るよう意識して録画していることを教えていただきました。視聴者のことを第一に考えて番組作りをするケーブルネットワークの取り組みを体験することができ、視聴者の目線に立つて考えることが、よい番組作りにつながっているのだと感じました。また、auショップへの営業にも同行させていただき、チラシをきれいに整頓したり、棚をきれいに拭いたりといった、目に見えない心遣いが、お客様の信頼につながっていくのだと思いました。今回の研修で得たものを、子どもたちに還元し、これからの教員生活に生かしていきたいと思っています。

## 一つ一つを大切に

～ 豊田市自然観察の森 ～

高雄小学校 大澤克彦 教諭



私は、豊田市自然観察の森で社会体験研修をさせていただきました。自然を相手にして、私たち教員とは全く違う仕事に思えますが、共通する部分を見つけました。「自然」とは、植物、昆虫、野鳥など様々な生態系の中でお互いがバランスを保つことによって成り立っています。そんな自然を保全するために、さまざまな分野の知識が必要になります。例えば、昆虫には合った支援を考えたとしても野鳥にとってはあまりよくない支援になってしまうこともあります。レンジャーの方は、幅広い知識を駆使して、一つ一つの生き物に合った保全の仕方を考えています。私たち教員も個性の違った子どもたち一人一人に向き合っていくという点で、レンジャーの方と大切な考えに共通する部分があると感じました。対象が自然と人とは違いますが、日々の研修等自身につけた知識を生かしていくことに違いはありません。今回の研修でお世話になった方々に感謝して、これからもよく学び、子どもたち一人一人に合った方法で向き合っていきたいと改めて感じました。

## 相手の立場にたつて

～ BON POINT CARDIN ～

扶桑中学校 中村健太郎 教諭



私は、岩倉にあるBON POINT CARDINというカフェで体験をさせていただきました。今回、開店準備・席への誘導・調理補助・商品提供・会計などの接客を体験させていただきました。事前の打ち合わせでは、経営理念の「洗練された生活文化の創出」を実践するために「知性的な雰囲気の店づくり」「非日常的な空間の提供」を意識しているとうかがいました。そのお話の通り、言葉遣いや、接客、整理整頓や清掃など、すべての従業員の方がそつた意識をもって実践していました。接客中では、しなくてはいけないことが複数発生し、困ってしまいました。自分が作業している時でもお客様の様子を気にし、今後の展開を想像することが大切だと教えていただきました。

従業員の方は、どんなに忙しいときでもお客様全体のお客様に気を配り、笑顔で、丁寧に接客をされていました。こうした気配りがお店のよい雰囲気を作り出していると思えました。今回の経験を活かし、生徒や保護者の立場にたつて物事を今まで以上に考えていきたいです。

## 相手のことを思いやる心

～ はら接骨院 ～

山名小学校 久保田泰介 教諭



私は、はら接骨院で三日間の研修をさせていただきました。研修全体を通して、院長先生と患者さんとの関わりの中で、二つのことを学びました。一つ目は、「表情」です。先生が患者さんと接するとき、いつも穏やかな表情をしていました。また、それによって患者さんも安心した表情になりました。院内はいつも温かな雰囲気に包まれていました。二つ目は、「聴く姿勢」です。先生は施術を行いながら、患者さんに痛い場所だけでなく、最近あったことなど、普段の何気ないことも聴いていました。患者さんの話を聴くことによって、身体だけでなく、心もほぐしていただきました。院長先生は、何をするときでも「患者さんのため」を考えていることが伝わってきました。そんな先生の姿を見て、教員である私も常に「子どものため」を意識して学級経営や授業に取り組んでいこうと思えました。この三日間で考え、感じたことをこれからの教育実践に生かしていきたいと思っています。